

浜松城跡

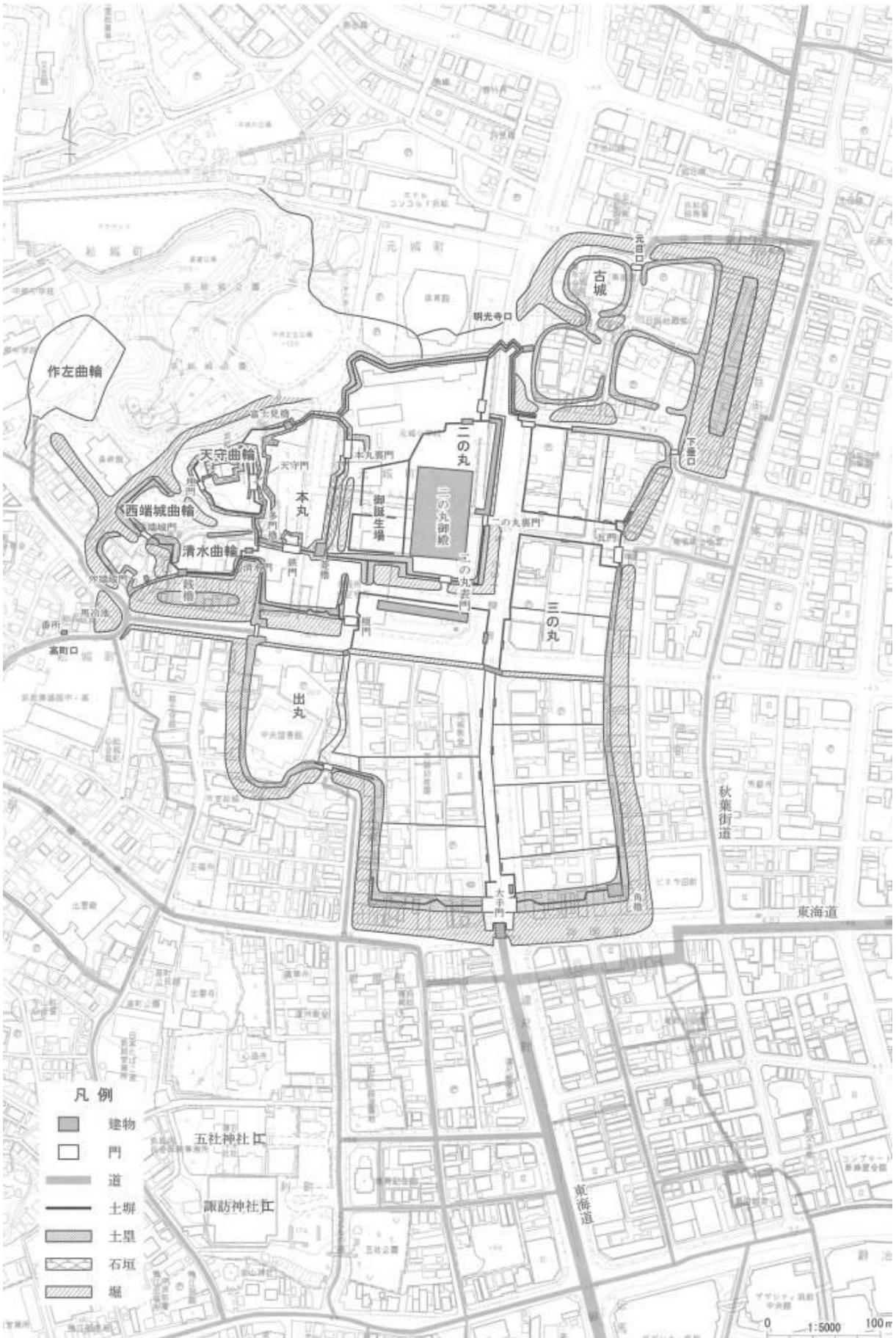
(第12次調査 第2期)

現地説明会資料

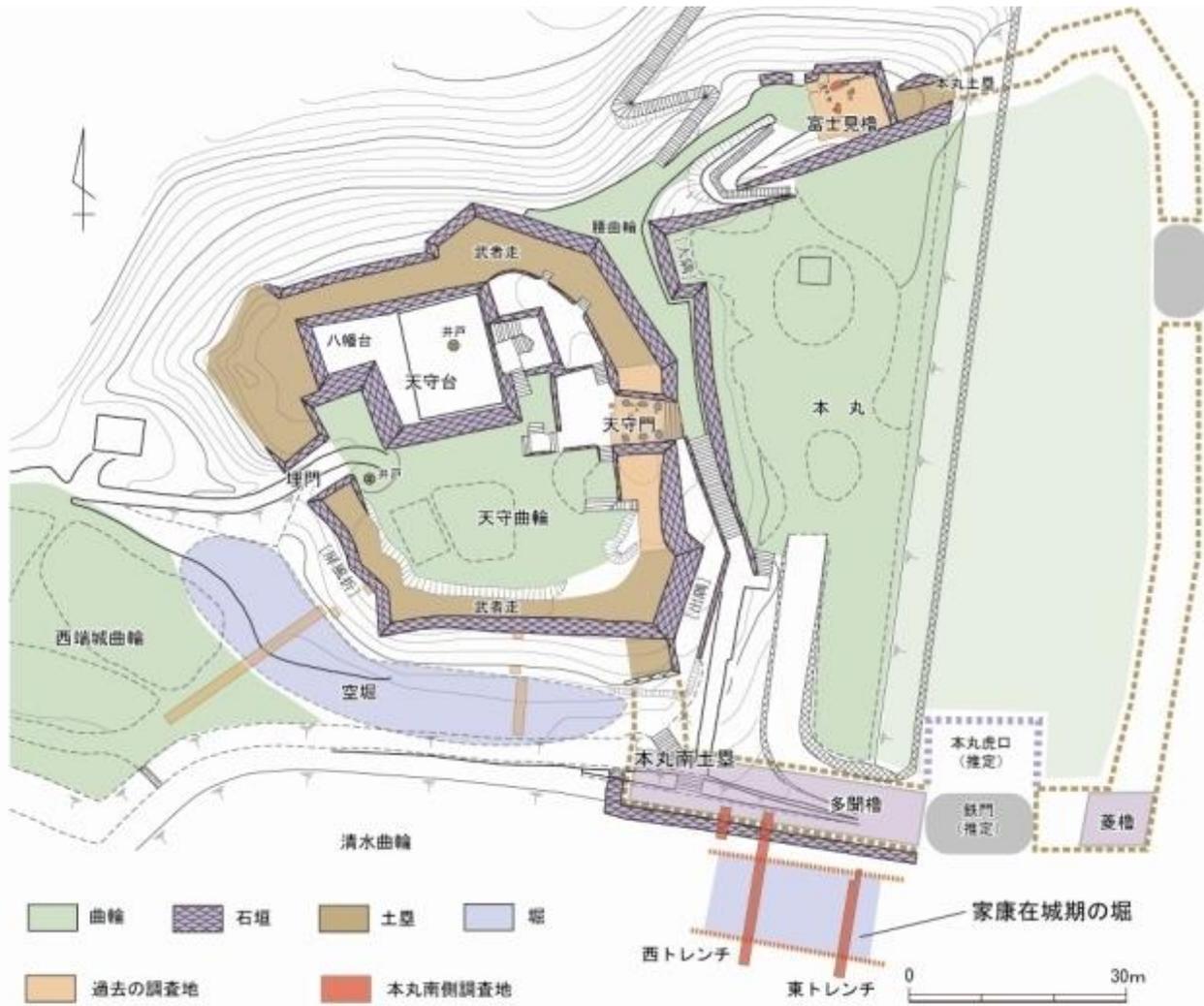


2014年10月19日

浜松市文化財課



濱松城復元図



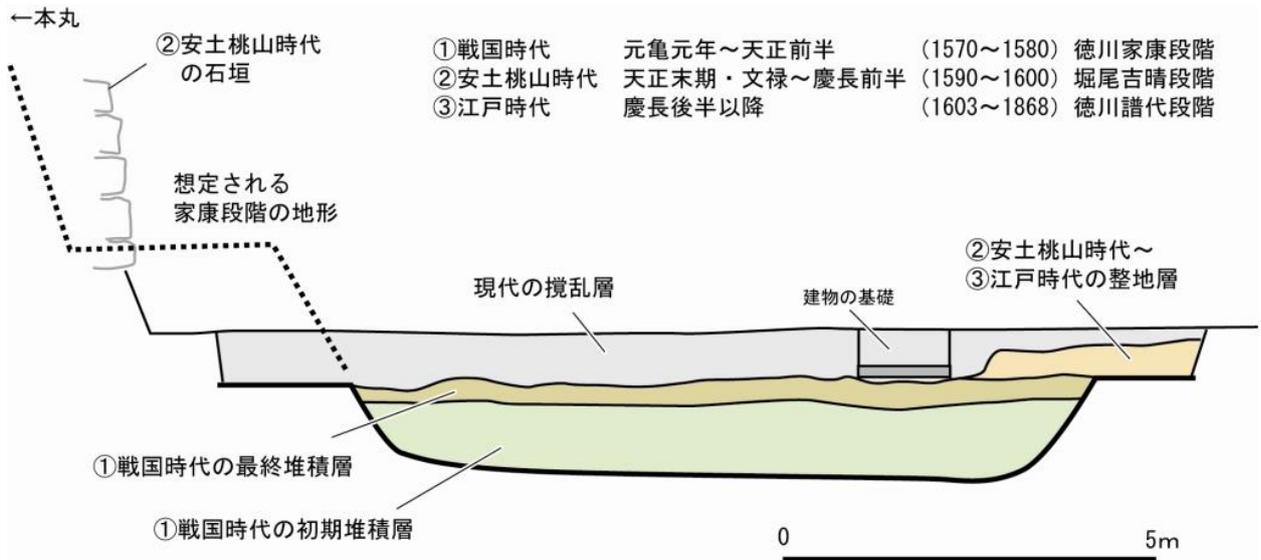
発掘調査位置図

■ 調査成果

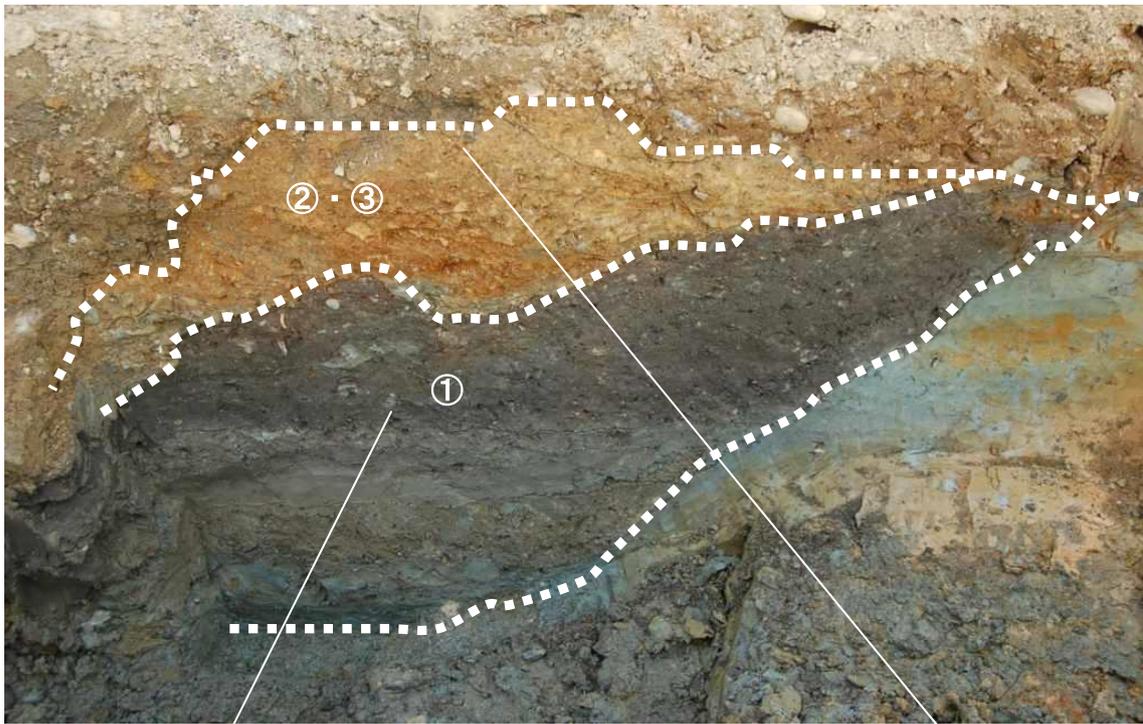
2014年10月に実施した本丸南側の発掘調査によって、新たに徳川家康在城期（1570～1586）の堀を確認した。堀の幅は11m、深さ2m。失われた地盤を考慮すると、本来の深さは3m程であったとみられる。堀の斜面には石垣はなく、いわゆる「土造り」の構造である。浜松城跡において家康の時期の城郭構造を示す遺構の発見は初めてのことである。元亀～天正年間における家康本拠地の具体像に迫る重要な発見である。



本丸とその周辺を描いた絵図



堀の断面模式図



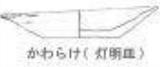
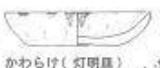
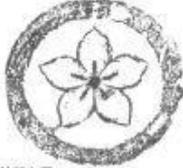
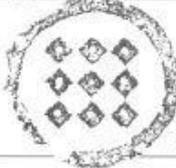
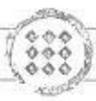
掘 南側立ち上がり (西トレンチ南側)



掘下面 埋土出土品 灰釉小皿 (①16世紀後葉)



掘上面 整地層出土品 天目茶碗 (③17～18世紀)

西暦	城主	地域の支配者	関連出土品	今回の出土品		
1565	飯尾賢連・兼連・連竜	今川氏	 かわらけ(灯明皿)  瀬戸美濃天目茶碗			
1570	徳川家康	徳川氏	 かわらけ(灯明皿)  瀬戸美濃折皿			
1590	(城代) 菅沼定政	豊臣氏		<p>【時期】</p> <p>I 期</p> <p>II 期</p> <p>III 期</p> <p>IV 期</p>		
1600	堀尾吉春・忠氏		扇馬期軒丸瓦 		 灰釉小皿	
1601	松平忠頼				 三巴紋	
1609	水野重仲				 三巴紋	
1619	高力忠房				 天目茶碗	
1638	松平乗寿					
1644	太田資宗・資次		 太田氏結椀紋軒丸瓦 			
1678	青山宗俊・忠雄 忠重		 青山氏無字銭紋軒丸瓦			
1700	1702		本庄(松平) 資俊・資訓		 本庄(松平)氏九目結紋軒丸瓦	 九目結紋
1729	松平信祝・信復					
1749	松平(本庄) 資訓・資昌	 松平(本庄)氏九目結紋軒丸瓦(縮尺1/12)				
1758	井上正経・正定 正甫	 井上氏井桁紋軒丸瓦	 斜格子紋			
1800						
1817	水野忠邦・忠精	 水野氏沢瀉紋軒丸瓦(縮尺不明)  沢瀉紋鬼瓦の破片				
1845	井上正春・正直	 井上氏井桁紋軒丸瓦(縮尺1/12)				
1868						

浜松城歴代城主の変遷と出土品